

**製品名: SENP6 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab17729**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	SENP6
別名	SENP6; KIAA0797; SSP1; SUSP1; FKSG6; Sentrin-specific protease 6; SUMO-1-specific protease 1; Sentrin/SUMO-specific protease SENP6
遺伝子 ID	26054.0
SwissProt ID	Q9GZR1
免疫原	抗血清はヒト SENP6 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1042-1091

**背景**

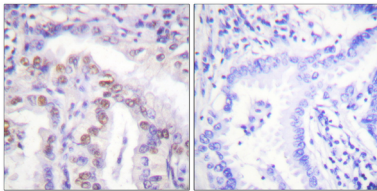
SUMO1 (UBL1; MIM 601912) などのユビキチン様分子 (UBL) は、構造的にユビキチン (MIM 191339) と関連しており、ユビキ

チンと同様に標的タンパク質に連結することができます。しかし、UBLの共有結合によって修飾タンパク質が分解されることはありません。SUMO1の修飾は、RANGAP1 (MIM 602362)の核膜孔複合体への標的化、およびI- $\kappa$ B- $\alpha$  (NFKBIA; MIM 164008)を26Sプロテアソームによる分解から安定化させることに関与しています。ユビキチンと同様に、UBLは成熟UBLタンパク質のC末端グリシン-グリシン残基に続く1つ以上のアミノ酸を持つ前駆体タンパク質として合成されます。そのため、UBL前駆体の末端配列は、標的タンパク質への結合前に、SENP6などのUBL特異的プロテアーゼによって除去される必要がある (Kim et al., 2000 [PubMed 10799485])。SENPはイソペプチダーゼ活性も示す。機能: 標的タンパク質からSUMO1、SUMO2、およびSUMO3を脱結合させるプロテアーゼ。全長SUMOタンパク質を成熟型に変換するプロセスには関与していないと思われる。RXRAからSUMO1を脱結合させ、転写活性化を引き起こす。3つ以上のSUMO2またはSUMO3残基を含む基質に優先的に作用する可能性がある。類似性: ペプチダーゼC48ファミリーに属する。サブユニット: RXRAと相互作用する。組織特異性: 精巣、卵巣、前立腺などの生殖器官で高発現する。、

## 研究分野

-

## 画像データ



SENP6抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。